



津南中等教育学校 同窓会報

第3号

発行者

津南中等教育学校
同窓会

TEL 025-765-2062

印刷 津南印刷商事



同窓生のみなさまへ

同窓会副会長 三期生

関

真都佳

同窓生のみなさんいかがお過ごしですか？
本年八月十一日、同窓会総会が開催されました。多くの同窓生が集まり、役員一同本当に感謝しております。総会後の懇親会では久闊を叙し、同窓生という縦横のつながりをさらに強く感じ、同窓会のさらなる発展を祈念する会となりました。

次に、近況報告をさせてください。
現在私は水道橋にある東京歯科大学に通っております。近くの東京ドームには、学校帰りに友達とよく立ち寄り、先日はタダで巨人Tシャツを頂いて参りました。

大学の授業はすべて必修で、毎日午後五時まで授業です。体育の授業では、一月に皇居一周マラソンがあるようです。六年後には、この大学病院の研修枠に入つて、東京オリンピックを見にいけるよう頑張っています。

学外の生活は、授業終了後にデイズニーランドやシーへ出かけたり、九月の試験期間には友人とあちこちの図書館を巡ったり、試験終了後は青山の劇場に舞台を見に行つたり、日々東京探検をし、発見の連続の毎日を送っています。



八月に新潟で行われた全国歯科学学生総合体育大会では、無敗で優勝、悲願の全国制覇を果たしました。来年は北海道での開催です。連覇目指して頑張ついくつもりです。

次回の総会では、再び多くの同窓生のみなさまと集えますよう、よろしくお願いいたします。
では、また元気にお会いしましょう。

に所属しています。中等生時代には一勝をあげることを目指して日々練習していましたが、大学では全国制覇をめざして練習です。高校県代表レベルの先輩たちに混じり、あまりのギャップに戸惑いましたが、今では楽しく汗を流しています。

勝をあげることを目指して日々練習でしたのが、大学では全国制覇をめざして練習です。高校県代表レベルの先輩たちに混じり、あまりのギャップに戸惑いましたが、今では楽しく汗を流しています。

中等での豊かな歳月に

津南中等教育学校 校長 吉原 満

教頭が昔、愛鳥センターに勤めていたことがあります。現在も調査を続いているため、本校の中庭を訪れる鳥類の知識が少し増えました。カスミ網にかかった鳥に足環をつけて放すのですが、ある日メジロを見たときはとても感動しました。緑色の羽毛で目のまわりがくっきり白い、可憐な鳥です。中庭は樹木が多く、また山や河が近いので、多様な種類の鳥が集まります。雀やカラスしかいない私の実家とは大違いです。多くの珍しい鳥を見せてもらいましたが、残念ながら名前は全て忘れてしまいました。

毎日校長室から眺めていても、教えられるまでは鳥類の豊富さに気づきませんでした。しかし、津南中等教育学校の恵まれた教育環境を求め、さまざまな個性を持つ生徒が「未来への思い」を胸に集まってきたことは、年を重ねれば重ねるほど強く認識させられます。特色あるこの地で豊かな経験を積み、人間的に成長を遂げられる環境が年々整ってきました。時には葛藤もあると思いますが、成長の過程で多くの友達と友情を深め、お互いに切磋琢磨し、熟成してゆきます。6年間の中で他では得られない濃い人間関係を生み出し、同窓会へと受け継がれていくのです。

今年3年目を迎えた同窓会は、1、2期生が成人し、3つの学年で構成されるようになって厚みを増しました。よちよち歩きだった赤ん坊が、急に大人びてきました。な感じです。夏の「卒業生による

進路講話」の行事で、14人の先輩が来て自らの体験を熱く語つていただき、これから進路を決めようとしている後輩にとって最高の実例となり、勇気を与えてくれました。心から感謝します。

来年度は、創立10周年となる大きな節目の年です。同窓会でもぜひ盛り上げていただきますよう、陰に日向にこれまで以上のご支援をお願いします。

就職して思うこと。

1期生 江村 夏紀

私は高校生のとき英語が大嫌いでした。小学生の時から勉強していた英語を嫌いになる理由はとてもシンプルで、英語を好きで居続ける理由が分からなくなつたから。ただそれだけのことでした。しかしそんな私が今、国際物流の会社で営業の仕事をしています。私は受かった大学もありましたが、悩みに悩んだ末に語学系の専門学校に進学しました。この学校で、私は日本にばかり固執するのではなく、世界中の人々と繋がりたいと思うようになりました。

現在は英語での書類作成は当たり前で、その上、学んだことのないスペイン語での書類作成と大変ですが、毎日が充実しています。今思えばなぜもっと英語を勉強しなかったのか。嫌いになることは簡単ですが、再び好きになることは難しいと実感しています。しかし根本的なところでは私は、自分が思っていた以上に英語が大好きだったのだなと思いました。小学生の頃は通訳になることが夢でした。それから月日は経ち、いろいろな夢を抱くようになりましたが、いつもついで回っていたものは“英語”という語学でした。たくさん回り道をしてたどり着いた答えは、最初に思い描いていたものと同じで、英語を必須とする職業でした。

両親や先生にはたくさん迷惑をかけた学生生活。良い意味でも悪い意味でも甘えていた学生生活でした。しかしこれからの人生は支えられる人生ではなく、支えていく人生にしていきたいと思います。そして海外で働くという夢を実現できるよう日々努力していきたいと思います。

大学三年目にして思うこと

1期生 藤木 大地

それは行動力である。私がカリフォルニアのレストランで現地の研究者と話をしているとき、その話題が舞い降りた。大学三年というと、卒業後の進路について真剣に考え始める頃であると思うが、私がアメリカに行ったのは、ただ単にインターンシップその他諸々から逃れたかったからというわけではない。知人がサマーセッションに参加した話を聞いて、興味半分でアプリケーションを送った。そこでの人との出会いが、私の目標をより明確なものにしてくれたのである。

確かに周りの環境は重要なのかもしれない。刺激しあって高めあう仲間が隣にいてくれたことは、私にアメリカに行くチャンスを与え、そこで学ぶ意義を見出させてくれた。さらには、現地で様々な人の出会いをもたらし、大学院の教授や研究者とつながることができた。ただこれは偶然できた環境ではない。今まで環境に文句を言いながらも甘んじてきた私は、そこから抜け出し、変化をもたらすのは自分の行動であり、環境が自分を変えてくれるのではないということを学んだ。

一歩踏み出すのである。アポなしでアドミッションセンターに行ったときに出会った学生は、先輩にあたる研究者を紹介してくれた。ダメもとで自分を紹介してくれと慶應の先生に送ったメールは、自分の将来を変えうる偉大な先生と話ができる架け橋になってくれた。

今の私の目標は、アメリカで博士号をとることにある。研究に身を置くことは簡単ではないことはわかっているが、技術開発の中心地で活躍する夢が私を魅了してやまない。自分にその環境を与えるものは何か。それは行動力である。

現在の課題とこれからの目標

2期生 藤ノ木 香

津南中等を卒業して既に一年半が過ぎました。大学二年生に進級するにあたり、私は人文学部の六つある専攻プログラムのうち日本・アジア言語文化学プログラムを選択しました。この専攻では日中韓の言語学と文学について学ぶことができ、私は日本近世文学を通して日本の江戸時代の文化を学びたいと思ったので専攻することを決めました。しかし、私は受験期に民俗学を学ぶつもりで志望大学を決め、今年の進路決定の直前まで社会・地域文化学の民俗学や歴史文化学の日本近世史で迷っていたので、今でも「この選択で本当によかったのだろうか」と思うことがあります。

また、部活動やアルバイトでも二年生として先輩から仕事を引き継ぎ、後輩を先導していくなければいけない立場となり責任や行動力を求められるようになりました。中等生時代、先輩や後輩との関わりが希薄でこのような経験がなかった私にとって初めての経験であり、不安になることもあります。

このような悩みや不安は経験の無さから来るもので、安定ばかりを望んで何もしなかった自分を悔いるとともに学生のうちに経験を積んでおかなければと思っています。勉学に関しても、自分の選択を信じて、今から卒業論文の研究テーマを考えていきたいです。失敗することや初めてすることをやる前から避けずに、何事も一度やってみることを有言実行していくことを目標に、残りの大学生活を送っていきたいと思います。

大学2年目にして思うこと

2期生 藤木 郁弥

私が大学2年目にして考えることは、知識は世界を拡大させるということです。私は実は4年生まで大学進学することは考えておらず、専門学校へ行くことを考えていました。その理由としては、自分の好きなことで自分の道を切り開いていきたいと考えていたからです。当時、自分の人格は完成していたという思い上がりが存在し、かつ、大学へ行く意味などないと思い込んでいました。しかし、自分の周りで支えてくれる大人の方々から「大学へ行きなさい」と言われ、行くことに決めました。行った目的は行ってから見つける、そう思って2年目に突入しました。

実際2年目に突入した今現在の心境は、大学へ進学してよかったと考えています。私の行っている新潟大学は総合大学であるため多種多様な学部、学生がいます。そのため、自分が今まで会ったことのない人間との出会いがあります。また、大学は専門的な学問を学べます。私は哲学、宗教等を主に学んでいるのですが、哲学は全学問のルーツです。そのため物理や数学にも哲学的分野は存在します。私はそれを哲学から学ぶことができ、そのおかげで高校時代苦手で距離を置いていた理系科目にも興味を持つようになりました。そこで気づいたことは、知識は自分の見ている世界を広げてくれるということです。一つの事象において知識がない場合一つの見方しかできませんが、知識があれば多様な見方が可能になりそれは人生をより楽しくするスパイスだと思います。皆さんもぜひ、世界を広げてみてください。

進学して思うこと

3期生 高野 真宏

私が金沢大学に進学してから半年ほど経ちました。(書いている次期は九月末です)
進学してから半年。前期過程も終わり、私が思うことがあるとすれば、一人でやることの大変さです。

朝早くから講義があったとしても、一人暮らしですから起こしてくれるのは枕もとのスマホぐらい。朝ごはんは自前で用意するより、大学の食堂で食べることのほうが多いかったです。あさって忙しいですし。

講義や部活の関係で帰るのが遅くなったりしても、一人暮らしですから晩御飯はない、あるいは作り置きです。私は安いご飯屋さんに厄介になるか、食べないで寝ることが多かったです。夜って疲れますし。

不摂生はよくないと頭では分かっているのですが、いざ実行しようとしてみるとなかなか大変なものです。一日に必要な野菜の量とか、そういうのを知っておくといいかもしれません。

そうでなくても、家事の類を気が向いたときにしかやらないでいた人間でした。一人暮らしになってから、親、というか家事をやってくれていた人のありがたさを感じています。半年経った今でも実家から通っている友人Nをうらやましく思うときがあるほどですよ。

これから進学するだろう在校生の皆さん、親の手伝いでも何でもいいので家事スキルを磨いておくか、マメな人にでもなっていたほうがいいと思います。大学でできた友達を招くのに、ヘンな気を遣わなくてよくなります。

進学して思うこと

3期生 小林 美佳

時間はあっという間に過ぎて、1年前の自分は今通っている短大にちゃんと合格できるかと、不安を抱えていた頃だったと思います。今の自分は1年前の自分にはっきり言えるほど、充実して楽しい生活となっています。

私は普段から勉強には積極的な方ではありませんでした。なので、中等時代は先生を困らせながら必死でやるべきことをしてきたつもりです。そのおかげか、少しではありますが、基礎がなんとなくある状態からスタートすることができました。しかし、やはりやっておけばよかったという後悔も授業中に何度も感じました。だからこそ、私は悩んだのなら「やる」と前向きに考えるように決めています。

短大に進学して私はよい方に進歩できたと思います。一番変わったと思えることはいろんなことに積極的になれたことです。面倒くさいからという理由であまり行動的ではありませんでした。しかし、短大は誰かがやってくれることは非常に少ないです。だからこそ、私は積極的にならなければなりません。やりたいことができないのはとてもつまらないことです。さらにいえば、短大は2年しかありません。そうであるなら迷っている時間がもったいないです。だから、楽しめるなら、将来に役に立つならいろんなことをていきたいです。

短大での時間は有限です。4年制大学より遥かに短いです。だらだらと無駄な時間をすごすよりも私はこれからもいろんなことを楽しみながら挑戦していきたいと思っています。

3期生 上原由芽加

初めまして、みなさん。私はこの春に就職しました。早いもので社会に出てから6ヶ月が経ちました。そんな私がこのような依頼を承り、とても光栄に思います。私がみなさんに伝えられることは少ないとは思いますができる限り今後に生かせられるように精一杯書かせていただきます。

私が就職をして思うことは、社会の厳しさ、学生にはない責任の重大さと働くことの意味です。少し前まで学生だった私にはないとても大きな試練の壁です。でもそれはネガティブな意味ではなく、ポジティブな意味合いです。まず社会の厳しさというものはやはり甘えが許されない状況が当たり前、ということになります。学生の「宿題をやり忘れた」が社会に出ると「とんでもないミス」になりうるのであります。それは信頼や今まで構築していったものが一瞬にして崩れてしまうのです。そういう1つの自分の甘さで良い意味でも悪い意味でもすぐ変わってしまいます。次の責任の重大さもこれに繋がります。こういった状況下で一人一人の責任が重くのしかかります。だから私達はそれを承知して仕事をする義務があるのであります。これらを統括して最後に思うのが働くことの意味です。私は以前まで働くことは単に自己の成長やお金を稼ぐ手段として考えていました。ですが実際現場に入ってみると確かに自己の成長は感じますが、本当の働く意味とは感謝の気持ちを感じさせることなのではないかと思いました。実際働いてみて、働くことはつらいことが多くて、それでお金を貰うのです。そんな中私達をずっと養ってくれたのです。私は思います、今やっとスタートラインに立てたと。

私は就職して様々なことを経験しました。きっとこれからもし目指す道が違くなっても必ずこの経験は生かされます。学歴社会とはよく聞きますがそんなこと私は思いません。自分の信じた道で一番輝ければいいと思います。

第3回同窓会総会報告

2014年8月11日(月)、第3回目となる津南中等教育学校同窓会総会が開かれました。今年は会員増加により会場をグリーンピア津南へと移し、1期生から3期生まで、約60名の会員によって行われ、久々の旧友たちとの再会を喜びました。総会では、議事にて同窓会活動計画や会計予算、また10周年記念の贈呈品についての話し合いが行われました。以下に、その詳細を報告したいと思います。

第1号議案【平成25年度 津南中等教育学校同窓会活動報告】について

○役員より補足…去年はあまり活動できていないが、今後は同窓会を独立した活動にしていきたいため、皆さんにもご協力をお願いしたい。

第2号議案【平成26年度 津南中等教育学校同窓会活動計画(案)】について

Q1.同窓会報の発行が、去年は9月だったのに対し、今年はなぜ11月なのか。

A1.今年から会報係を作つて充実させていきたいが、その準備期間が必要であるため。

Q2.第2号議案で質問を聞かれても(そもそも同窓会活動や会則というものの定義、他の学校の例というものを知らないため)、良し悪しが分からぬ。同窓会でとりあげる議題としては不十分ではないか。他の同窓会での例も取りあげたほうが、イメージが沸くのでは。

A2.会則は、他の学校の会則を参考に、小川先生などが作成してくださった。また、今後の同窓会の活動ももっと充実させていきたいため、期待してほしい。

⇒**第2号議案：可決**

第3号議案【平成25年度 津南中等教育学校 同窓会会計 決算報告書】について

第4号議案【平成26年度 津南中等教育学校 同窓会会計予算(案)】について

Q1.今日の(グリーンピア津南での)会場費は。

A1.皆さんの負担で、今日徴収した食費3500円に入っている。今年から会場が変わったことで費用がかかるようになったが、収入は毎年同じにもかかわらず、広報費(印刷代)などで支出は毎年増えていくため、金銭面が年々厳しくなってくる。申し訳ないが、会場費・食費は個人で負担してもらいたい。

Q2.広報費の増額は、去年と比べ1万円で足りるのか。

A2.まだ具体的にどう増やすかは案案中のため、あくまで予算案で1万円とさせていただいた。

Q3.収入面についてだが、入会金だけでなく、年会費として卒業生全員から徴収してはどうか。

A3.年会費の公平な徴収は、困難と思われる(全員から毎年必ず徴収というのは、現実的ではない)。もし年会費を考えるのであれば、役員で話し合い、議会にかけることになる。

(A3.補足)会則15条の寄付金という形で、役員の中で検討していきたい。

⇒**第4号議案：可決**

第5号議案【津南中等教育学校 同窓会一部役員継続及び新規役員入会の件】について

○役員より補足…会則14条より、役員の任期は2年だが、同窓会という機構が十分に確立されていないのと、10周年を迎える準備のため、任期を続投していきたいと思う。

Q1.関東支部幹事の風巻さんは、実際は高田にいるが、良いのか。

A1.全くその通りだが、新しい関東支部幹事を選ぶにも皆さんの承認が必要であるため、今年はこのままでいかせてもらいたい。

Q2.関東支部幹事の仕事はどのようなものか。

A2.卒業生が各地に広がった際も、各地域で集まってつながりを深めてもらうための活動を行うこと。本部との連携を密にして、仕事を分担すること。

⇒**第5号議案：可決**

第6号議案【津南中等教育学校 10周年の記念品贈呈の件】について

○役員から補足…来年度で10周年を迎えるにあたり、同窓会から記念品を贈呈したい。教育環境整備品として、220万円の予算内で考えたい。現段階で候補に挙がっているのは、特別棟4階の教室にエアコンをつける、体育館のドン帳を修繕する、など。

Q1.エアコンは特別棟4階だけでなく、科学教室などにもつけたらどうか。

A1.予算内ではまず3階の方からつけていき、予算が下りたらそちらにもつけることとなる。また、皆さんから頂いている積立金で行うことなのでまたいい意見があれば学校に連絡をしていきたい。

今年は会員が増えたこともあり、終始積極的な意見交換が行われ、充実した総会となりました。来年はいよいよ10周年。津南中等教育学校の節目の年となりますので、今回来られなかつた方々も、来年はぜひ奮ってご参加ください。

特集

津南中等創立当時を知る 先生方に聞く！

来る一〇一五年十一月一日、津南中等教育学校が創立十周年を迎えます。そこで、創立当時から津南中等生を見守つてきてくださった先生方に、津南中等時代での思い出・今卒業生に伝えたいことなどを聞いてきました。（聞き手：一期生 河合祥子）

名地智子先生

—津南中等が来年で十周年ですが、いかがですか。

—創立時の津南中等生の印象は。

自分がつけば十年という感じ。「三十代さきがが」と思っています（笑）

—津南中等生が成長したと感じたことは。

自分にとつては初めての中学生。やりたいことがある子が多く、まじめで正義感が強く意識も高い。

—津南中等生が成長したと感じたことは。

先生方も前例のない中、目標を細かく設定し課題を出した。初めは「これをやつて何になるんだろう」と思っていた生徒たちも、進路決定が迫つてくるにつれ、積極的になり、大人になつていった。

—では、先生ご自身が得たもの・苦労したこと。

もともと中学生の成長過程に興味があり、津南中等ではそれを知ることができた。また、高校にはない未経験の仕事が多く、給食では、初めは準備に苦労し二時間もかかった（笑）。また、課題をどう出すかなどのシステムは、竹村先生が自學カードを考えたことで確立。自學カードといえば、最初はコメント欄への返事

に迷い、齋藤先生や三原先生はよくいろいろ書けるなあと思つていた。

—卒業生たちとの関わりはありますか。

進学先で辛い時に先生の顔を思い出すと言つてくれる子もいる。卒業生には、なにかあつたらいいでも会いに来てほしい。

—最後に、津南中等を卒業し各地で頑張つているみなさんに対するメッセージを。

津南中等では、いい生徒・いい先生・いい保護者に恵まれた。特に創成期の先生方八人はかけがえのない同志。生徒との出会いもすこく大きかつた。これから的人生、みなさんもかけがえのない人出会うことがある。そんな出会いを大切に、元気に頑張つてください。

—丸山義則先生

—津南中等が来年で十周年ですが、いかがですか。

—津南中等が来年で十周年ですが、いかがですか。

—津南中等が成長したと感じたことは。

十年経つたという感覚がなく、当時のことはよく覚えている。一日一日が濃かつた。

—創立時の津南中等生の印象は。

入試を抜けてきた、意識が高い子たち。

いろんな夢を持つ子が多く、勉強に対するやる気。宿題には苦戦していたが（笑）、まじめだった。二期生で受験者数は減ったが、意識は一期生と変わらず、

「先輩たちがやつてきたことなのだから、どこかにつながるような、意味のあるこ

となんだ」と、下の学年になればなるほど感じていたようだ。

—津南中等生が、年を追うごとに変わつていつたことは。

部活で、生徒に取り組ませていることは何も変わっておらず、能力にも差はない

のに、確かに各期生でだんだん結果が出るようだ。「先輩たちがやつてきたことが繋がっている」と感じ、やつていてことには価値が見出せるようになってきたのだと思ふ。

—では、先生ご自身が、津南中等時代で得たものは。

ゼロからの学校の立ち上げに関われたことは幸運。教科でも部活でもやりたいことができ、また自分のかかわりが生徒に直に伝わると感じた。

—創立時の津南中等生の印象は。

中学生は初めてで未知の世界だったが、むじやきで幼い子どもたちの成長を見られることが、楽しみだった。

—津南中等生が成長したと感じたことは。

他の中学生より勉強面などで負担があり、最初は自分のことで精一杯だったの

が、だんだん周りが見られるようになり、社会性が出てきたと感じた。

—では、先生ご自身が、津南中等時代で得たものは。

中学生に数学を教えたことで、生徒が高校までにどのように知識を得てどこで引

つかかるのか、知ることができ、良かつた。また、丸山先生や齋藤先生や三原先

生の、中学生に対する丁寧な指導に感

激。中学生は、よく見てあげて、話を上

手に聞きだしてあげなきゃいけないと学んだ。

—津南中等での思い出は。

チャレンジウォーカー東京研修、またそ

の研修の発表会など。東京研修では、生

徒たちが自分たちで行動できるか遠くか

ら見守つていただけなのに、いつのまに

か「鈴木先生が失踪」ということになつ

ていた（笑）。また、普段の学校生活では、

数学の話をしに来てくれる子や、数学で

面白い考え方をする子がいたことを覚えている。

—最後に、津南中等を卒業し各地で頑張つているみなさんに対するメッセージを。

六年間を共に過ごしたということは大き

いから、その仲間たちはぜひ大事にして。

また、それぞれのところで目標を見つけ

て頑張つてほしい。そして、最終的には地元に戻つてくれたらとても嬉しい。

◎名地先生、丸山先生、鈴木先生、本当

にどうもありがとうございました！

在校生の活躍(部活動大会結果等)

【陸上競技部】**前期生**

中越地区大会

<男子> 走高跳 第6位 中澤知之 1m60

<女子> 走幅跳 第3位 金澤光紀 4m92

全日本通信大会

<女子> 走幅跳 第8位 金澤光紀 5m03

県総体

<女子> 走幅跳 第5位 金澤光紀 5m14

後期生

県大会

<男子> 800m 第3位 1分55秒47 桑原 陸

県1年生大会

<男子> 砲丸投(5kg) 第2位 13m28 風巻 光

<女子> 400m 第7位 1分08秒30 阿部祐理

県選抜大会

<男子> 800m 第2位 1分56秒44 桑原 陸

砲丸投 第5位 12m20 風巻 光

八種競技 第5位 4128点 山田翔太

北信越新人大会

<男子> 800m 第2位 1分57秒74 桑原 陸

【野球部】**前期生**

都市大会

1回戦 ○2-1 松之山中

2回戦 ●1-3 中条中

敗者復活1回戦 ●0-7 吉田中(6回コールド)

都市新人戦

2回戦 ●0-7 十日町南中

後期生

春季県大会

1回戦 11-0 安塚松之山(5回コールド)

決勝戦 4-1 新潟商業

春季北信越大会

1回戦 1-4 上田西

夏季選手権新潟大会

A代表決定戦 10-1 安塚松之山(7回コールド)

夏季選手権北信越大会

1回戦 0-1 上田西

秋季県大会

1回戦 27-0 安塚松之山(5回コールド)

決勝戦 0-7 新潟商業

秋季北信越親善試合

1回戦 1-1 福井高専(抽選により勝ち上がり)

準決勝 2-10 岡谷工業(7回コールド)

【サッカーチーム】**前期生**

魚沼四市二郡大会総合2位

0-0 塩沢中

0-0 六日町中

3-1 大和中

中越地区大会

1回戦 1-5 江陽中

魚沼四市二郡新人大会総合4位

対 塩沢中 勝利

対 大和中 敗北

対 六日町中 敗北

後期生

春季中越地区大会

1回戦 0-6 長岡工業

敗者戦 2-1 十日町総合

9位~12位決定戦 0-13 長岡大手

秋季中越地区大会

0-3 十日町

全国高校サッカー選手権大会

1-3 高田商業

【卓球部】**前期生**

都市大会

<男子団体> 予選リーグ4位

<女子団体> 予選リーグ3位

<女子シングルス>

ベスト8 古川悠生

ベスト8 山本 桜

都市カデット卓球大会

<男子シングルス>

2位 荒木龍平

都市新人戦

<男子団体> 予選リーグ4位

<女子団体> 予選リーグ3位

<男子シングルス> 3位 樋熊 樹

中越新人卓球大会

<男子シングルス> ベスト32 荒木龍平

後期生

春季地区大会

<男子団体> 1回戦 0-3 長岡向陵

【バレーボール部】**前期生**

都市大会

1-2 川 西 (●22-25 ○26-24 ●21-25)

0-2 中 里 (●13-25 ●18-25)

都市新人大会

0-2 水 沢 (●10-25 ●13-25)

0-2 中 里 (●15-25 ●16-25)

後期生

春季地区大会 対長岡農業高校

●0-2 {●10-25、●22-25}

県総合体育大会

○2-0 糸魚川白嶺 (○25-6、○25-13)

●0-2 中越 (●12-25、●14-25)

秋季地区大会

●0-2 十日町高校 {●12-25、●14-25}

【吹奏楽部】

県コンクール (高等学校Aの部) 銅賞受賞

県アンサンブルコンテスト (高等学校の部)

2団体 銅賞受賞

【アート部】

体育祭でのパネル作成や文化祭での作品展、演劇発表等積極的に活動しています。

【科学部】

第58回 日本学生科学賞

中学生の部 努力賞

「リサーチュ图形の研究」3年村山祐樹

努力賞

「カジカの体色変化の研究」

3年 上倉大知、江村史温、島田尚嶺

高校生の部 努力賞

「キッチン・キトサンの研究」

5年 瀧澤優威、小宮山歩夢

今年度はアマチュア無線局を開局しました。

編集後記

みなさん、津南中等同窓会報第3号はいかがでしたか。同窓会も3年目を迎え、今回からページを増やし、内容もさらに充実させようということになりました。とりあえずは、本格的な編集係ができるまでの間、私がお手伝いできることに。ページ割りを考えていたところ…、「あ、ちょうど来年10周年だし、津南中等ができたばかりの頃の先生方にインタビューさせていただくのはどうだろう」と突如思い立ち、行動に移したのでした。ちょっとした記者気分で、久々に先生方に会えるということで嬉しくもありますが少し緊張気味です。名地先生と丸山先生に会うために松之山へ車を走らせ、鈴木先生に会うために新潟市のガストへ自転車を走らせ…。そして、いざ!お会いすると、なんと、全く久々の感じがありませんでした。お世話になっていた日々がまるで昨日のことのようです。先生方も、そうだったのでしょうか。どの先生方も10年前のことを昨日のことのように語っていらっしゃって、また卒業生の名前をたくさん挙げ、思い出や彼らの近況などを楽しそうに話しておられました。本当は個人名を一人一人出して紹介できたら嬉しいのですが…、きりがありませんのでご了承ください。また、私の力量不足で、後になって「ああ、これをもっと聞いてくるんだった!」と思ったこともあります。また、今回は1ページしかなかったために、いろいろな楽しい話をたくさん伺ったのに、全てを載せることができなかつたことや、他の先生方にはお話を聞くことができなかつたことが心残りです。しかし、三人の先生方のご協力もあり、内容の濃いインタビュー記事になったかと思います。

卒業生の皆さんも、それぞれの場所・さまざまな方面でご活躍のことと思いますが、この同窓会報がみなさんの思い出を掘り起こすきっかけとなり、たまには旧友やお世話になった先生方に会いに行こうかなと思ってもらえるきっかけとなれば、嬉しいことこの上ありません。